

産業構造審議会製造産業分科会化学物質政策小委員会フロン類等対策WG

中央環境審議会地球環境部会フロン類等対策小委員会

第13回合同会議

議事要旨

開催期間

令和4年6月10日（金）～16日（木）

※電子メールによる書面審議

議題

1. 「平成25年改正フロン排出抑制法の施行状況の評価・検討に関する報告書（案）」に対するパブリックコメントで寄せられた御意見の概要及びそれに対する考え方（案）について
2. 平成25年改正フロン排出抑制法の施行状況の評価・検討に関する報告書（案）について

議事概要

- 議題1. 「平成25年改正フロン排出抑制法の施行状況の評価・検討に関する報告書（案）」に対するパブリックコメントで寄せられた御意見の概要及びそれに対する考え方（案）（資料3）について

承諾する：産構審15名、中環審21名

（うち、産構審と中環審の重複6名。以下同じ）

承諾しない：産構審0名、中環審0名

資料3の内容が確認され、「御意見に対する考え方（案）」について了承された。

- 議題2. 平成25年改正フロン排出抑制法の施行状況の評価・検討に関する報告書（案）（資料4）について

承諾する：産構審15名、中環審21名

承諾しない：産構審0名、中環審0名

資料4の内容が確認され、「報告書（案）」について了承された。

議題 1～2 についていただいた御意見

委員氏名	御意見
赤穂 啓子 委員	<p>国をあげて温室効果ガス排出量を 2050 年実質ゼロとするためには、産業界だけでなく、民生分野での取り組みが重要である。一般家庭においても、エアコンの電力消費量が大きいことは知られているが、冷媒が温室効果ガス排出量拡大の要因となっていることはあまり知られていない。また、現在普及する技術だけでは、今後の代替フロン削減目標を達成できないことは、家庭だけでなく産業界においても周知されていない。</p> <p>まずは代替フロンの製造者、代替フロンを活用した冷凍・空調機などを製造する関係事業者が、飛躍的なイノベーションに取り組み、代替フロンの排出削減を抑制する製品開発を進めることが重要である。それと同時に、代替フロンが温室効果ガス排出削減において大きな課題となっていることを周知し、産業、業務、民生のあらゆる場面で機器の買い換えや、漏えい対策、回収・再生に取り組む国民運動を展開することも同時に取り組むべきことである。</p>
出野 政雄 委員	<p>一般論的な意見です。</p> <p>(1) 特に解体工事業者については①立法趣旨、②制度内容、③事業者のメリット、事業者のデメリット等に関して、さらなる広報・周知徹底が必要だと思えます。</p> <p>(2) 経済的手法の導入、回収率アップのためのガイドライン・マニュアルの公表、管理のデジタル化等の検討・実施に関して、さらなるスピードアップが必要だと思えます。</p> <p>(3) 現在の報告制度はデータ収集のみならず、特に常習的違反者に対する指導・監督ペナルティーの強化にさらなる活用が必要だと思えます。</p> <p>(4) 自治体の権限強化及びシステムの全国統一化を図る必要があると思えます。</p> <p>(5) 解体工事についての包括的な事前（及び事後）届出制度を早急に構築し、解体工事に係る安全管理、環境保全、再資源化、有害物処理、統計データ収集、事業者管理等々を一元的かつ合理的に行うべきだと思えます。解体工事業法の制定を希望します。</p>
大石 美奈子 委員	<p>今後の地方での人口減や行政の人材難を考えると、資料 3 の御意見については、効率的で効果的な立入検査のために政令市への監督権限の移譲や、都道府県職員の身分を政令市職員が併任することは大変重要になってくると考えますので、御意見に対する考え方のように、できるだけ早急に前向きに進めていただければと思えます。</p>
塩澤 かおる 委員	<p>両議題に関しては、承認致します。</p> <p>ユーザーの立場となるスーパーマーケットとしては、低 GWP 値の機器導入にはコストや工期において厳しい面もあります。新規出店だけでなく改</p>

	<p>装のタイミングでの普及につながる幅広い内容の補助や施策をご検討いただきたいと思います。</p> <p>また、資料4の“自主的な冷媒管理を促すためのインセンティブなどの周知を工夫する”について、HFC冷媒機器を使用し続けているスーパーマーケットも多くありますので、インセンティブを広く、分かりやすく周知していただきたいです。</p>
中村 美紀子 委員	<p>前回は申し上げたかと思いますが、意見しましたとおりに、現状と課題、そして取り組むべき施策を明確に記載いただき、大変分かりよい報告書になっていると思います。報告書案については特に意見はございません。</p> <p>これから益々達成が厳しくなる状況ではございますが、同じく厳しい達成を目指す省エネ分野などとの調整も非常に大変かと思えます。</p> <p>目指す目標が高いこと、またそれが我がごとであることを誰もが認識できるよう、引き続き広報等含め、よろしく願いいたします。</p> <p>皆様のご意見踏まえ、取りまとめ頂きありがとうございました。</p> <p>大変お疲れ様でした。</p>
福田 真介 委員	<p>特には無いが、「2050年カーボンニュートラル」の長期戦略において、規制強化や監視制度策は継続して行う一方、メーカーの技術革新を目的とした補助金制度や機器ユーザーに対する、導入促進の為の補助金制度の継続等も合わせて検討すべき内容と考える。</p>
福田 隆 委員	<p>P.35 施策の囲みについて</p> <p>「デジタル化及び冷媒種報告の可能性について～中略～積極的に検討を進めるべきである」</p> <p>と記載して頂いていますが、デジタル化こそ今後の環境施策の検討を行う上でのEBPMの基礎であり、社会のためになると確信しています。強い決意をもって進めて頂きたいと考えます。</p>

(御意見等について)

いただいた御意見は、今後、報告書に基づく検討や対応の際に参考とさせていただきます。